



きたおおじ保育園

2023年度

3月 園だより

<大好きなお友だち>

卒園を間近に控えた仲間たちは、いま積極的に友だちを求める気持ちが強くなり、友だちと一緒に遊ぶ事を楽しんでいます。もちろんケンカもあります。おしゃべりが盛んになり、口喧嘩もできるようになり、言葉で泣いちゃう場面だってみられます。「もう一緒に遊ばない！」って言われて泣いちゃって、言ってたくせに、気が付けばまた一緒に遊んでる。ほっぺに涙が残ったまま、顔をくっつけて笑い合うその姿は、とっても愛おしくて、胸がイッパイになります。センチメンタルな年度末のお話…。

<ハグ！>

わたしたちが今心掛けている事は、子どもたちとの「気持ちの良いハグ！」です。なぜ今ハグなのでしょう？子どもを抱きしめるなんて当たり前な事、もっと前から当たり前のようにやっていたのでは？心掛けるまでもなくやっていたのでは？保護者の方々の中には疑問に思われる方もおられるかもしれませんね。

<安心できる存在として>

考えてみれば、子どもたちにとって私たち保育士は家族ではなくて他人ですよ。他人同士が抱きしめ合う事は決して当たり前な事ではありません。それは特別な事なのです。私たちが勘違いしてはいけない事は「ハグをすれば安心する」のではなく、「安心出来る相手とハグをする」事が大切なのです。春に出会い、一緒に笑ったり、怒ったり、泣いたりしながら、いろんな日々を共に過ごし、子どもたち一人ひとりにとって、安心できる存在として、今、しっかりハグしていきたいんです！

<子育て四訓>



乳児はしっかり肌を離すな

幼児は肌を離せ手を離すな

少年は手を離せ目を離すな

青年は目を離せ心を離すな



これはネイティブアメリカンの子育てとして古くから伝わる「子育て四訓」です。肌が離せない、手が離せない、目が離せない、それは大変なことです。それは億劫なことです。しかし、いつかは離す時が来る。その温もりを離す時がくるのです。そう思うと、抱き締めずにはられません。いっぱい！いっぱい！ハグします！そして心は離しませんからね～！ここは大好きがあふれる保育園ですから！

<ありがとうございました>



泣いてばかりだったあの時、ちっとも落ち着けなかったあの場面、そんな思い出がよみがえり、あの時の子どもたちを思うと、成長した姿がよく分かります。保護者の皆様にはいろいろとご協力をいただき本当にありがとうございました。今年度も残り一ヶ月、よろしくお願ひします！

主任保育士 糸井恵太



きたおおじアルバム

